

学校法人尚綱学院
尚綱学院大学女子短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

尚綱学院大学女子短期大学部の概要

| | |
|-------|--------------------|
| 設置者 | 学校法人 尚綱学院 |
| 理事長名 | 加藤 正名 |
| 学長名 | 佐々木 公明 |
| A L O | 松田 憲次郎 |
| 開設年月日 | 昭和25年4月1日 |
| 所在地 | 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号 |

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

| 学科 | 専攻 | 入学定員 |
|-----|----|------|
| 保育科 | | 150 |
| | 合計 | 150 |

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

| 専攻科 | 専攻 | 入学定員 |
|-----|------|------|
| 専攻科 | 保育専攻 | 10 |
| | 合計 | 10 |

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

尚綱学院大学女子短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 6 月 19 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、建学の精神である「衣錦尚綱」と、教育目標の中心であるキリスト教教育が明確に示され、積極的に取り組んでいる。学生に対しても、『学生生活 Guide Book』に記載し共通理解のための努力がされている。

教育課程は保育士資格と幼稚園教諭二種免許の取得を前提として、二つの免許・資格取得を目的とした授業編成がされ、数多くの選択専門教育科目も開講している。ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動は、全教員に対する授業評価を専任教員による結果分析、授業改善計画書の提出の義務付けを伴うもので、教育課程の改善へ組織的に対応している。

教員組織は、短期大学設置基準の規定を満たしている。

学生支援では、クラブハウスが新設され、学生会館、保健室など様々な施設が自由に利用できるよう整備されており、学生の健康管理面でも、常時 2 人の職員が配置され、その体制も十分である。

教員の研究活動については『尚綱学院研究紀要』などにより発表する機会が確保され、演奏会・展覧会などの活動も活発に行われている。公開講座やオープンカレッジなどを運営する組織として、エクステンションセンターが設置され、併設大学とともに多数の講座を実施している。

平成 18 年には寄附行為の大幅な見直しを行い、評議員会が機能を発揮できるように整備を行うなど、大学運営を円滑にする取り組みをしている。諸規程が整備され、教授会、委員会は適切に運営されており、事務組織についても、業務は適切に行われている。また、スタッフ・ディベロップメント (SD) 活動も定期的に行われている。

また、財務情報は適切に公開され、当該短期大学における定員充足率は十分に満たしており、おおむね健全な状態である。自己点検・評価委員会は多くの教員が関与するよう配慮され、全教職員が課題を共有し、平成 18 年度に行った外部評価のための資料として十分に活用している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ 入学前に課題提出を求めるなど、就学前の学習意欲を高める取り組みがされている。

評価領域Ⅵ 研究

○ 平成 17 年度より保育者養成教育課程の発展的検討とリカレント教育の充実に役立てるための共同研究が行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 現職の幼稚園教諭・保育士のためのリカレント講座を開講しており、地域社会に貢献している。
- 仙台市教育委員会と締結した覚書により、平成 20 年度より希望した学生を仙台市立学校に教育補助のボランティアとして派遣している。

評価領域Ⅷ 管理運営

○ FD とともに SD への取り組みを教員と一丸となって実施している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ シラバスが教員によってばらつきがあるので、15 回の授業計画の記載方法を整備されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

| 評価領域 | 評価結果 |
|----------------------------|------|
| 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | 合 |
| 評価領域Ⅱ 教育の内容 | 合 |
| 評価領域Ⅲ 教育の実施体制 | 合 |
| 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果 | 合 |
| 評価領域Ⅴ 学生支援 | 合 |
| 評価領域Ⅵ 研究 | 合 |
| 評価領域Ⅶ 社会的活動 | 合 |
| 評価領域Ⅷ 管理運営 | 合 |
| 評価領域Ⅸ 財務 | 合 |
| 評価領域Ⅹ 改革・改善 | 合 |

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、アメリカ・バプテスト婦人外国伝道協会が派遣した女性宣教師たちによって創設された学校を土台として設置された短期大学で、「女性も社会的責務を負うべき存在である」という強い信念を持ってこれまで女性の教育をしてきた。当該短期大学名と建学の精神は「謙虚な人間であること」を諭す言葉で中国古典の一つである『中庸』の「衣錦尚絅」からきており、女性宣教師のアニー・S・ブゼルが選んだ聖句（新約聖書ペテロの手紙第一 3章 3～4節）と併せて大切な建学の精神と位置付けている。

このキリスト教精神に基づいた教育目的・教育目標を「尚絅学院大学女子短期大学部学則」第1条及び『学生生活 Guide Book』に明確に定め、必要に応じて学科会、教授会の議を経て内容点検をしている。

学生には『学生生活 Guide Book』のほかに新入生オリエンテーション、礼拝、必修科目の「聖書学入門」などを通し啓発を図るとともに、教職員にも「建学の精神」研修会などを開催し理解を深めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

体系的に教育内容が設定され、学生のニーズに対応した教育課程となっている。保育士資格と幼稚園教諭二種免許の取得を前提にした学科であり、特徴的なのは、建学の精神を盛り込んだ共通教育科目「聖書学入門」の設置及び学生の主体性を高めるための数多くの選択専門教育科目（「発達心理学Ⅱ」など）を開講していることがあげられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は、短期大学設置基準の規定を満しており、教員の採用、昇任も適切に運用されている。

教育実施体制は、学長、学科長、担当教員の連携により確保され、教員はクラス担任のほか、学科会、各種委員会に所属して学生指導に取り組んでいる。また、短期大学の校地・校舎は短期大学設置基準の規定を満たしており、講義室・実習室などの施設は余裕のある構造である。備品面でも、視聴覚機器、パソコンなど十分な数量をそろえており、学生がゆとりを持って学べる体制となっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学期末に学生による授業評価を行っており、満足度項目では5段階で共通基礎科目が3.8、専門教育科目が4.2、全体評価が3.9となっている。専任教員による結果分析、授業改善計画書の提出など、組織的にも授業改善の意欲が持てるようになっている。また、卒業生に対してアンケートを行っており、5段階評定値の5と4が72.1パーセントと高い評価を得ている。

評価領域Ⅴ 学生支援

学生支援体制は、整備されている。様々な学生活動における設備や支援状況は、環境整備を含め、充実してきている。建学の精神を基に、十分なアドミッション・ポリシーを有した体制で入学者を受け入れている。また、2年間同じ教員が入学から卒業まで支援・指導する体制が整備されており、個々の学生への支援も充実している。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究業績にはばらつきはあるものの、すべての教員が研究活動や演奏会・展覧会などを展開し、共同研究も活発に行われている。

研究紀要は併設大学と共同で毎年1～2冊発行され、研究成果を発表する機会が確保されている。個人研究費と共同研究費があり、科学研究費補助金も獲得している。また、研究のための個人研究室、機器、備品、図書などについても整備され、研究活動を行うための諸条件は整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

エクステンションセンターを設置し、地域社会に向けた公開講座、オープンカレッジ、リカレント教育など県内の高等教育機関として十分に地域に貢献し、社会的活動に取り組んでいる。

学生ボランティア活動は、ボランティアサークルを中心に他の文化部も幼稚園や保育所での公演など活発に活動が行われており、将来保育に携わる学生の社会経験を積極的に支援している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会・評議員会・教授会などは適切に運営されている。平成 18 年には寄附行為の大幅な見直しを行うなど、大学を円滑に運営する取り組みをしている。

また、学長のリーダーシップにより、予算・人事・教育・研究などの多方面における管理・監督を行える状況となっており、適切に運営されている。事務職員組織の規模は様々であるので、評価としては対象としないが、業務の偏りや業務量の増加が散見されるとのことであったが適切に運営されている。大学規模や学生数、教員数などと比較すると、職員数が不足しているとの自己点検・評価であったが、適切な運営や人員配置は当該短期大学にて、十分に検討されたい。

評価領域Ⅸ 財務

当該短期大学としては、十分に定員充足をしており、収支も良い状態である。

しかしながら、学費に対する消費支出の割合が十分ではなく、教育研究経費比率の改善が望まれる。

中・長期経営計画については、理事長より全教職員に対する説明を行い、末端までの周知を行っている。過去の財務情報や事業計画などは適切にウェブサイトにて公開している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

「尚絅学院大学女子短期大学部自己点検・評価委員会規程」が整備され、学長を委員長とする「自己点検・評価委員会」も設置し、教職員の大半がかかわるように構成員が組織され、改革・改善のために努力している。

平成 19 年 3 月には、卒業前の全学生を対象に学生生活全般にわたるアンケートを実施し、小冊子にまとめて刊行している。

また、平成 18 年 9 月には評価委員 3 人を招き外部評価を行っており、「尚絅学院大学女子短期大学部自己点検・評価委員会規程」に基づき実施し、外部評価委員に指摘されたいくつかの問題点についても、講演会などを開催し具体的に改善のための努力をしている。